

複合柱パンザ 概略仕様書

1. 適用範囲

この規格は、主として架空配電線路、架空送電線路および独立電話線路の支持物として使用する複合柱パンザ（以下、「複合柱」という。）に適用する。

2. 種類

複合柱の種類は次のとおりとする。

項目 種類	ひび割れ 試験荷重	台柱 長さ	鋼板組立柱 長さ	連結 長さ
1 0 m	3.5kN	4.00m	6.63m	0.50m
1 2 m	3.5kN	4.45m	7.95m	0.40m

3. 構造

(1) 複合柱は、鉄筋コンクリート製の台柱および鋼板組立柱より構成し、台柱の上に鋼板組立柱を連結する構造とする。

(2) 台柱は次の各号に適合しなければならない。

- a. 鉄筋コンクリート製とし、鋼板組立柱との連結部分はテーパをもたせ、その他の部分はテーパなしとする。また、連結部は鋼板組立柱と嵌合させた状態で荷重がかかった場合、連結部分に亀裂その他の欠陥が生じない構造とすること。
- b. 元口および末口には、底蓋および上蓋を取付けすること。
- c. 有害なきず、ひびわれなどの欠点がなく、表面はなめらかで、外観がよくなければならない。
- d. 真直で中空のものとし、その各断面は一定の壁厚を有するものとする。

(3) 鋼板組立柱は次の各号に適合しなければならない。

- a. キズ、サビ、サケメその他の欠点がなく、連結部分は完全に溶接されていること。
- b. 表面は一樣に亜鉛めっきを施し、なめらかに仕上げること。
- c. 各部材は完全に連結できるものであること。
- d. 台柱との連結部分はテーパ嵌合とし一樣に密着し、荷重を1ヶ所に集中することにより複合パンザならびに台柱を損傷したり、連結部分に亀裂その他の欠陥が生じない構造とすること。
- e. 末口にはキャップを取り付けること。
- f. 表面には足場ボルトを容易にかつ確実に取付けできる足場取付金物を溶接により取り付けること。

4. 形状および寸法

(1) 台柱の寸法は下表のとおりとする。

項目 種類	長さ		コンクリート 厚さ	直径 外形	参考 重量
	直部	連結部			
許容差	+50mm -10mm	±5.0mm	-	+4mm -2mm	-
10m	3.45m	0.55m	32.0mm	265.6mm	248kg
12m	4.05m	0.40m	34.0mm	283.0mm	350kg

項目 種類	連結部				テーパ°	標準 連結 長さ
	外形(mm)		円周(mm)			
	元口	末口	元口	末口		
許容差	±1.4		±4.0		-	-
10m	265.6	256.2	834.4	804.9	1/58.5	500mm
12m	283.0	276.0	889.0	867.0	1/57	400mm

(2) 鋼板組立柱の各部材の寸法は下表のとおりとする。

部材 番号	長さ	板厚	円周		参考 重量	標準 連結 長さ
			末口	元口		
許容差	±5mm	+20% -0%	+4mm, -0		-	-
1	2.00m	1.2mm	536mm	639mm	14kg	240mm
2	2.00m	1.7mm	617mm	722mm	23kg	
3	2.00m	1.9mm	694mm	799mm	26kg	340mm
4	1.50m	2.1mm	767mm	847mm	23kg	
5	1.71m	2.2mm	811mm	908mm	29kg	390mm

(3) キャップの寸法は下表のとおりとする。

板厚	高さ	内径
1.0mm +0.2mm -0.1mm	100mm±5mm	176.0mm±3mm

5. 材 料

鋼板組立柱の材料は次の各号によらなければならない。

- 各部材に使用する鋼板は、電気設備の技術基準の解釈第59条第4項に定めるものを用いること。
- キャップはJIS G 3141(冷間圧延鋼板および鋼帯)に規定するSPCD, またはこれと同等以上のものを用いること。
- 亜鉛めっきに使用する亜鉛はJIS H 2107(亜鉛地金)の普通亜鉛地金, またはこれと同等以上のものを用いること。

6. 性 能

複合柱の性能は下表のとおりとする。

項目		性 能
曲げ強さ	台柱	a)ひび割れ試験荷重を加えたとき、幅0.25mmを超えるひびわれが発生してはならない。また、荷重を取り去ったとき幅0.05mmを超えるひびわれが残ってはならない。 b)破壊荷重はひび割れ試験荷重の2倍以上でなければならない。
	鋼板組立柱	a)ひび割れ試験荷重を加えたとき、部材に変形および亀裂などの異常を生じないこと。 b)ひび割れ試験荷重の2倍以下で破壊しないこと。
足場ボルト類受口強さ	鋼板組立柱	2.94kN 3分間の垂直荷重に対して異常なく、5.88kNで破壊しないこと。
亜鉛めっき	鋼板組立柱	a)付着量60mg/cm ² 以上。 b)均一性 12回で終止点にならないこと。

7. 荷 造

鋼板組立柱は入子式に整理し、輸送中損傷または変形しないように適切に荷造りする。

8. 表 示

複合柱には次の事項を容易に消えない方法で表示しなければならない。

(1) 鋼板組立柱

- 製造業者名またはその略号
- 製造年(西暦)月
- 部材番号
- 最小・標準・最大連結長さ位置を黒色線で表示

(2) 台柱

- ひび割れ試験荷重
- 複合柱の略称
- 形成年(西暦)
- 製造者名または略号
- 最小連結長さ位置を黒色線で表示
- 地際位置表示
- 底蓋表示(ひび割れ試験荷重, 複合柱の略称, 形成年月)

以上